

東日本大震災の記録

— 3.11をわすれないために —



せんだいメディアテーク・仙台市民図書館

平成24年2月

1 はじめに

開館10周年と大震災

せんだいメディアテーク

館長 佐藤 壽男

せんだいメディアテークは、平成23年1月に開館満10年を迎えました。仙台市の生涯学習施設として、年間100万人を超える方々に利用されるまでになっています。

前年10月から開館10周年事業として、スタジオシアターでの「ことばをこえて—映像の力」、トークセッション「コミュニケーションの未来へ」、ギャラリーや空きスペース、建物のガラス面なども使用した作品展示などの「いま、バリアとはなにか」を実施し、これまでの10年を振り返り、これからの10年の方向性を探る試みを行いました。

そして3月12日には、一連の事業の掉尾を飾るべく、伊東豊雄氏、桂英史氏、奥山恵美子市長をお迎えし、開館10周年・地域創造大賞受賞記念トーク「メディアテークから、未来を語る。」が予定されていました。

しかし、前日の3月11日の東北地方太平洋沖地震により、メディアテークは7階天井の落下、3階南面内窓ガラス破損、1階南側ガラス大扉の移動、ダブルスキンの構造ガラス破損などの建物に被害を受けたほか、一部スプリンクラーの誤作動による床面への水漏れや大多数の図書資料等の散乱で、再開の見込みをつけることが困難な状態となりました。

震災以後、安全を確保しながら、建物の機能を早急に回復させるべく努力がなされました。再開への過程で、物事を考えたり、判断する際に念頭に浮かぶのは、3月11日の前と後ではメディアテークをめぐる状況が一変してしまったのではないかと、ということです。

設置者である仙台市の財政や施策の優先度などというものから、市民の生活感、芸術や文化へのかかわり方等々、特にメディアテーク利用者が、その運営や事業に期待し、求めるものは以前と同じなのだろうかということです。

更に、市民（利用者）の被災の実態を本当に受け止めているのだろうかということです。被災状況が一樣でなく、単純化するのには憚られますが、地震の被災者と地震の後に津波にも襲われた被災者では、被災の程度と質に圧倒的な格差が生じており、復旧が始まって、時間の経過とともに格差は拡大するばかりという場合も多く、生活の再建は難しいものと思われれます。

メディアテークのこれからを考えると、取り巻く状況の変化、そして各々様の境遇ではなく、敏感でより深く研ぎすまされた心情の利用者を前にして、以前の延長上で物事を考えることはできないということです。震災を経て否応なく立っているこの場で、単に以前の物事をなぞることはできません。何を変えるのか、何を変えないのか見極めるのは難しく、ひな型のないこれから、時代、社会、人間への洞察力をはじめ、多様な能力がより求められることになるでしょう。メディアテークの力量が試されます。

幸いにも、平成23年5月3日キックオフイベント「歩き出すために」で一部を再開することができました。

新しいメディアテークの10年が始まりました。

仙台市民図書館

館長 伊藤 益義

平成23年3月11日（金）午後2時46分、突然大地震が起こった。私はメディアテーク2階の館長室（今は会議室として使用している。）にいた。ちょうど区拠点図書館の館長が集まる地区館長会議をしていたところだった。激しい揺れが続き会議は中断、危険を感じて机の下にもぐった。館長室の棚にはメディアテークが優秀建築などで受賞した表彰楯などがいくつか飾ってあったが、それらがことごとく倒れ、落下した。今まで体験したことのない巨大な地震でしかも長く続いた。治まるかと思うとまた激しく揺れ出す。実際は3分間ぐらいの揺れだったそうだが、もっとずっと長く感じた。

ようやく揺れが治まって即会議は中止、すぐに3階の市民図書館へ行った。各館長も直ちにそれぞれの図書館へ向かった。何ということか、3階は落下した図書で書架周辺は足の踏み場もない状態だった。火災発生のアナウンスが響いている（実際には火災は発生していなかった）。利用者はカウンター前や4階にまだ何人も残っていた。余震が続く中、職員が非常階段へと利用者を誘導している。私もなかなか避難しようしない利用者に声をかけた。利用者にも職員にもけが人はいないようで安心した。利用者が避難した後、私たち職員も外に避難した。その日、余震は夜までひっきりなしに続いた。私はそのとき巨大津波が沿岸部を襲っていることをまだ知らなかった・・・。

本市には図書館が7館あるが、幸い利用者、職員いずれにも人的被害はなかった。しかし、全ての館で多数の図書が落下散乱し、建物にも大きな被害が生じた。市民図書館が入るメディアテークは7階の天井が落ち、スプリンクラーが作動、5階から7階は水浸しとなった。3階の大きな窓ガラスが割れ、チューブ（柱）周辺の天井が一部剥離、エスカレータ壁面に使用している多数のガラスも破損した。最も被害の大きい泉図書館は、大型ガラス33箇所が破損、外壁・内壁に亀裂が多数発生し、一部は鉄筋まで露出した。他の図書館においても、外壁タイル剥落、壁の亀裂、給水管破損による浸水、ガラス破損、地盤沈下による段差の発生等の被害があった。

震災後しばらくは全館休館を余儀なくされた。休館中は、図書の整理のほか、避難所への配本や、避難所等での本の読み聞かせを行った。4月初旬からは順次臨時窓口を設置し、一部図書の貸出を行った。復旧工事等も急ピッチで進み、4月19日に広瀬図書館、5月3日に市民図書館が再開、他の図書館も11月30日までに次々と再開した。

3月11日の大震災発生から1年が過ぎようとしている。本書は、東日本大震災の発生から復旧、再開へと至る図書館とメディアテークの動きをまとめた記録である。この記録が、3月11日を忘れないための未来への財産のひとつとして、いづれかでもお役に立てば幸いです。

2 地震の発生と規模・余震 (仙台市災害対策本部「本市の被害状況」より)

地震概要

- 発生日時 平成23年3月11日(金) 14時46分頃
- 地震名 東北地方太平洋沖地震
- 震央地名 三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度、牡鹿半島東南東約130km付近)
- 震源の深さ 約24km(暫定値)
- 規模 マグニチュード9.0(暫定値)
- 震度 最高震度 震度7(栗原市)
(市内)
 - 震度6強 宮城野区
 - 〃 6弱 青葉区、若林区、泉区
 - 〃 5強 太白区
- 津波 3月11日(金) 14時49分 太平洋沿岸に大津波警報発表(気象庁)
津波の高さ 仙台港 7.2m(推定値)
3月13日(日) 17時58分 津波注意報解除(気象庁)
- 最大余震 平成23年4月7日(木) 23時32分頃
宮城県沖(北緯38.2度、東経142.0度、牡鹿半島東約40km付近)
マグニチュード7.1(暫定値)
 - 震度6強 宮城野区
 - 震度6弱 青葉区・若林区
 - 震度5強 泉区
 - 震度5弱 太白区

被害状況(仙台市内)

◆ 人的被害 (平成23年12月27日 現在)

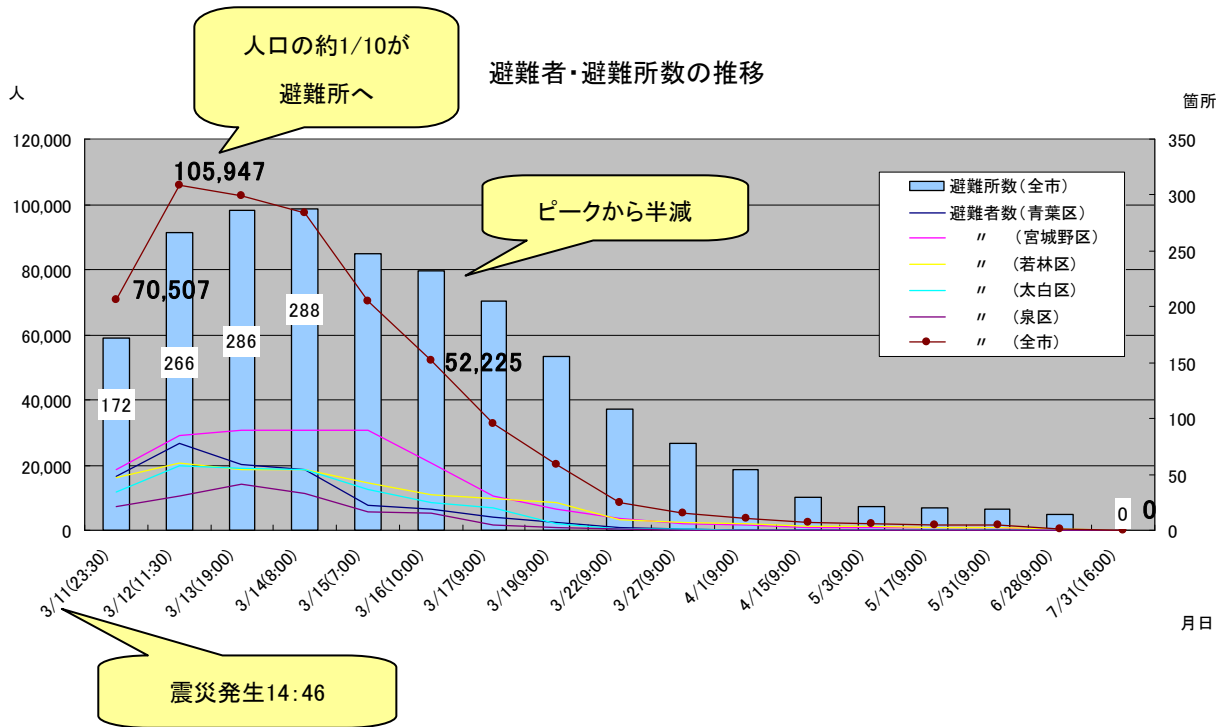
仙台市内で死亡または

死者	704名(男性 399名、女性 305名)
行方不明者	26名(男性 10名、女性 16名)
負傷者	2,269名

◆ 建物被害 (平成23年12月27日 現在)

全壊	28,702棟
大規模半壊	24,661棟
半壊	69,763棟
一部損壊	110,328棟

避難者の状況



仙台市における被害の特徴

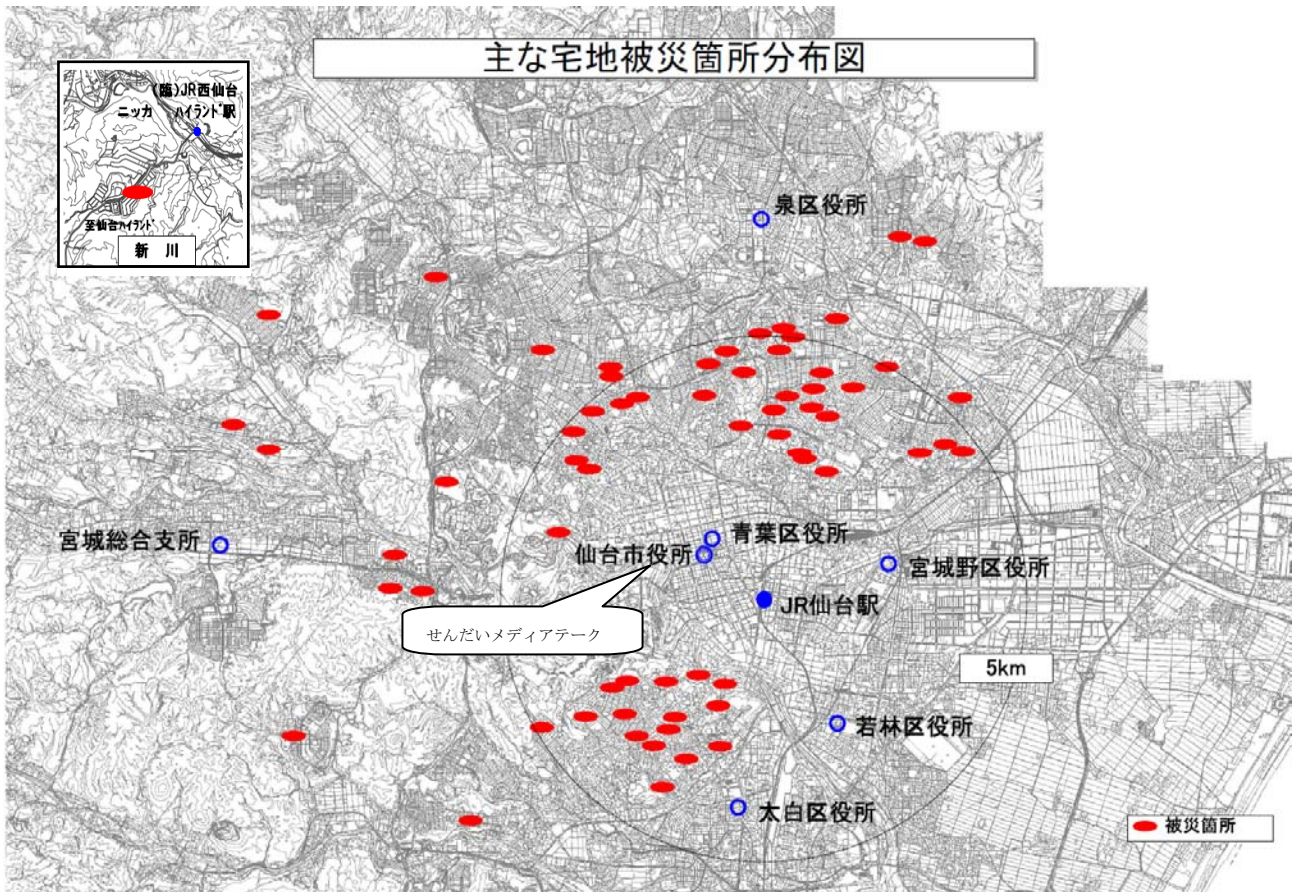
- ◆ 東部沿岸地域における津波被害
- ◆ 丘陵部地域における宅地被害

津波被災の状況

- ・ 人的被害（死者704名・行方不明者26名）（再掲）
- ・ 浸水世帯（8,110世帯 うち農家1,160世帯）
- ・ 農地被害（海水浸水約1,800ha等）
- ・ 産業施設の損壊（仙台港周辺の工場等）
- ・ ライフライン施設の損壊
（南蒲生浄化センター・ガス港工場等）
- ・ 交通インフラ施設の損壊
（仙台港・仙台空港等） など

宅地被災の状況

- 丘陵部地域の宅地で擁壁崩落・地すべり等が発生
（主に昭和30年代後半～40年代にかけて造成された団地）



市内被害額の概要

被害推計額 約1兆3,126億円 (11月28日 現在)

- 市有施設関係：約3,270億円
 - ・水道、ガス、下水道などライフライン関係 1,680億円
 - ・地下鉄、道路橋梁、公園等の都市基盤 1,270億円
 - ・学校、市営住宅、庁舎など建築物関係 300億円
 - ・廃棄物処理施設など生活衛生関係 20億円
- その他公共施設：約1,452億円
 - ・文教施設関係 875億円
 - ・公共土木関係 267億円
 - ・交通関係 259億円
 - ・ライフライン 保健医療関係 32億円
 - ・その他 19億円
- 住宅・宅地：約5,528億円
- 農林水産業関係：約729億円
 - ・農業 721億円
 - ・漁業 8億円
- 商工業関係：約2,147億円
(有形固定資産並びに製品在庫等の被災状況から想定)

迅速な対応を阻害した要因

1 燃料の不足

- ・重油、ガソリン、軽油、灯油
非常用発電、緊急車両・公用車・作業車の燃料、
避難所の暖房のための燃料が払底

2 通信手段の不全

- ・電話（固定、携帯）、防災無線、衛星通信のいずれも通じない、
あるいは極度に通じにくくなった

復興への課題

1 津波被災者・宅地被災者の生活再建

2 被災地に残る災害廃棄物対策

3 水田の復興

- ・津波被害と海水の長期冠水による水田被害

4 インフラの復旧に要する膨大な経費

- ・ガス製造施設、下水浄化センターなど大型プラントが壊滅。
学校等の公共施設も多数被害

5 雇用の確保

6 要援護者の増に対応する福祉施設等の拡充

- ・既存施設のマンパワー増強等の支援

主な復興支援

○20大都市災害時相互応援に関する協定

- ・東京都、札幌市、新潟市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、
静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、
広島市、北九州市、福岡市
- ・避難所対応、復興計画策定支援、物資搬送、応急危険度判定、災害廃棄物処理支援、し尿処理、
ごみ処理、下水道管きよ被害調査等 等

○18大都市水道局災害相互応援に関する覚書による応援給水

○全国からの都市ガス応援 約4,000人

○行政職員派遣（罹災証明受付等被災者支援関係事務）

○姉妹都市をはじめとした国内各市からの人的・物的支援

○世界各国・地域からの人的・物的支援

○陸上自衛隊による輸送支援・行方不明者捜索等

○DMAT・医師 看護師派遣

ほか、災害ボランティア、各種団体など多数

3 地震発生から再開まで

① メディアテークの被害額

・せんだいメディアテーク	施設・設備被害額	約 130,000,000円
・市民図書館	施設・設備被害額	260,000円
	資料被害額	383,000円

② メディアテークの被災・復旧状況

屋上

- ダブルスキン屋上窓（上部開放ガラス） 2枚破損・・・4/16修復完了
- " 固定マグネット ほぼすべて破損・・・3枚のみ交換
- 空調ダクト 脱落・横転・・・4/23復旧完了

7・6・5階

- 7階 天井落下・・・4/15取外し
- 6階女子トイレ 天井落下・・・4/15仮復旧
- 7階プロフィットガラス 大部分破損・・・10/6ガラスの撤去
- スライディングウォールの部材破損・・・5/3点検・交換・修繕
- スプリンクラー誤作動による5・6・7階の水浸し

4・3階

- 3階南側窓ガラス破損（室内側に落下）・・・4/25(仮)、11/24本復旧
- 市民図書館の大多数の図書資料の散乱（図書資料に被害）・・・3/24~3/31整理
4/7の余震による散乱・・・4/8~9整理

2・1階

- 2階 映像音響ライブラリーの資料の散乱・・・3/24~25整理
- 2階 教材ライブラリーの資料棚の半倒壊・・・3/23~5/20修復・整理
- 2階 市民図書館児童書コーナーの図書資料の散乱・・・3/20~21整理
- 1階 南側ガラス大扉の移動破損・・・4/5朱門の調整
- 1階 リブガラス（構造ガラス）の破損・・・4/11ガラス取外し
- 1階 搬入口シャッターの湾曲・・・3/18仮復旧

その他

- 西側避難階段のファインフロアの固定金具の一部破損・・・3/19修復
- エスカレータの壁面ガラスの多数破損・・・4/28復旧完了
- 停電・・・3/14復旧
- 都市ガス供給ストップ・・・4/21復旧
- 館内電話回線不通・・・3/18復旧

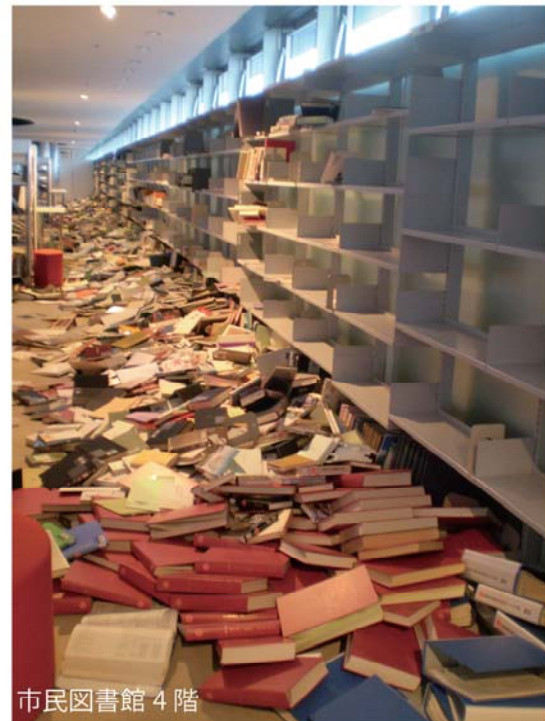
せんだいメディアテーク 各階復旧状況

階 月	1 階 オープン スクエア	2 階 映像音響・ 教材ライブラリー 市民図書館	3 階 市民図書館	4 階 市民図書館	5 階 ギャラリー	6 階 ギャラリー	7 階 オフィス スタジオ 会議室
H23 3月	3 / 11 14 : 46 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生						
4月							
5月	5/3～ 10:00 ～19:00	5/3～ 10:00 ～18:00	5/3～ 10:00 ～18:00	5/3～ 10:00 ～18:00			
6月		6/1～ 10:00 ～20:00 (土日祝 ～18:00)	6/1～ 10:00 ～20:00 (土日祝 ～18:00)	6/1～ 10:00 ～20:00 (土日祝 ～18:00)	6/2～ 10:00 ～19:00	6/2～ 10:00 ～19:00	
7月							
8月 ～ 12月							
H24 1月							1/27～ 9:00 ～21:30
2月							
3月	3/6～3/31 「星空と路（みち）～ 3がつ11にちをわすれないために」開催						

せんだいメディアテーク 被害状況



仙台市民図書館被害状況



③ 復旧の経緯

3月11日（金）14時46分頃、大きな揺れがせんだいメディアテークを襲った。

直ちに、来館者、職員等に対して「落ち着いてください」との非常放送を流した。揺れの収束とともに自衛消防隊本部が設置され、職員が、それぞれの階層、会場ごとに利用者の安否を確認しながら避難誘導にあたった。

以後、夜まで余震の続くなか、職員は施設内外の安全確認、危険箇所確認、ガス・漏電等の2次被害の防止の確認、当日のイベント主催者との中止の確認、関係部署への報告・連絡等々に追われた。

以下は、復旧に向けての主な動きである。（3月11日～5月3日）

日 付	せんだいメディアテーク	市民図書館
3月11日（金） 地震発生 14時46分頃	<ul style="list-style-type: none"> 地震発生後、非常階段等を利用して利用者・職員等が北側駐車場付近に約300名避難 職員がペアで、施設内外の被害状況を確認する。 危険箇所等への立ち入り禁止の対応策を講ずる。 事業職員、嘱託職員、臨時職員は連絡あるまで自宅待機とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 16時頃、余震がほぼ収まったところで、数人単位で施設内に残してきた利用者や職員の持ち物をメディアテーク職員同伴で持ち出す。 18時以降漸次解散。 図書館長・副館長・職員1名本部詰め。
3月12日（土）	<ul style="list-style-type: none"> 職員の安否確認（全員無事） 被害状況説明と当面の対応を決定 安全性の確認ができるまで、搬入ヤード内に当番が待機することとする。 建築業者（熊谷組）が委託業者とともに、館内の被害状況を確認 出勤者 5名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員は自宅で待機。 図書館長・副館長・職員1名本部詰め。嘱託職員は指示があるまで自宅待機とする。 応援勤務として、避難所へ職員の派遣を開始する。
3月13日（日）	<ul style="list-style-type: none"> 建設当時の建築担当者が、館内の被害状況を確認 出勤者 5名 	
3月14日（月）	<ul style="list-style-type: none"> メディアテークの周辺地域の電気が復旧、下階層から順次、通電確認の作業を開始する。 出勤者 4名 	

日 付	せんだいメディアテーク	市民図書館
3月15日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、メディアテーク、市民図書館、委託業者との合同ミーティングを開く。 （以降毎朝実施） ・開館の見通しがいいことを確認 ・復旧作業のルール（危険個所への立ち入り等）の周知 ・地震後5日目から出勤可能な職員を動員し、1階オープンスクエアの一部を臨時の事務スペースとして確保、ここを起点として各種の業務にあたることにした。 ・出勤者 10名 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアテーク佐藤副館長から、建築物に致命的な損傷はないが安全確認のため許可の出た場所から入室するよう指示あり。図書館は3階事務室とトイレの使用については可。 ・3階事務室の整理、各自の机周辺、事務室書棚、見計らい等の落下した本や印刷物等の整理と現状復帰。 ・3階作業室予約棚から落下した資料の整理。
3月16日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・電気業者（ユアテック）が継続して、館内の通電確認の作業を実施 ・1階に仮事務室を設営、ネットワークの環境を整備 ・施設利用の予約相手に対し、予約解除の連絡を開始する。 ・出勤者 11名 	
3月17日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターが一部復旧する。 ・建築業者（熊谷組）と被害状況の点検、躯体に被害のないことを確認する。 ・西側の避難階段に危険個所を発見 ・1階のカフェとショップが片づけ作業を開始する。 ・図書館サーバーの確認作業 ・出勤者 12名 	
3月18日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕箇所を特定して発注する ・全館（7階外周部を除く）の通電が終了する。 ・応援勤務として、避難所へ職員の派遣を開始する。 ・出勤者 10名 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアテーク佐藤副館長から、非常階段が外れる可能性があるため使用しないよう指示あり。 ・閲覧コーナーへの立ち入り禁止のため、各自業務。 ・出勤者 30名 電話対応 17件

日 付	せんだいメディアテーク	市民図書館
3月19日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内業務の見通しを協議 ・緊急修繕作業、安全確認作業を開始する。 ・スタジオ利用者の機材を回収する。 ・出勤者 7名 	<ul style="list-style-type: none"> ・閲覧コーナーへの立ち入り禁止のため、各自業務。 ・出勤者 18名 電話対応 50件
3月20日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕作業、安全確認作業を継続して実施する。 ・7階のサーバーが復旧、メールサーバーが復旧する。 ・7階の機能復旧までの館内移転先の検討と災害時対応機能の検討 ・出勤者 9名 	<ul style="list-style-type: none"> ・2階児童コーナーへの立ち入り可で落下した資料の整理。 ・出勤者 18名 電話対応 46件
3月21日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕作業、安全確認作業を継続して実施する。 ・出勤者 7名 	<ul style="list-style-type: none"> ・2階の整理ほぼ終了。 ・出勤者 15名 電話対応 52件
3月22日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕作業、安全確認作業を継続して実施する。 ・災害対応機能として、ボランティアによるメディア支援センターの可能性について検討 ・図書館サーバーの確認 ・職員(嘱託以上)ミーティング ⇒状況の確認、7階機能の移転 ・出勤者 20名 	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤者 7名 電話対応 67件
3月23日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕作業、安全確認作業を継続して実施する。 ・2階の教材ライブラリーの16ミリフィルムの変換作業 ・7階オフィスの移設計画の具体的な検討作業 ・出勤者 21名 	<ul style="list-style-type: none"> ・返却ポストの利用を再開 ・出勤者 27名 電話対応 75件
3月24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕作業、安全確認作業を継続して実施する。 ・電話移設により仮事務室での電話の応対を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4階の郷土資料コーナーの立ち入りが可能となる。 ・落下した資料の整理 ・3階事務室キャビネット内の保存 <p style="text-align: right;">市民図書館</p>

日 付	せんだいメディアテーク	
3月24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・2階の映像音響ライブラリー資料の整理作業を開始する。 ・機器類の本格的なチェックを開始 ・ガラスの撤去作業(1・3階・屋上) ・2階の照明復旧。 ・出勤者 23名 	<ul style="list-style-type: none"> 公文書の整理 ・臨時館長会議開催 ・出勤者 34名 電話対応 70件
3月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕作業、安全確認作業がほぼ終了する。 ・3階開架コーナーの安全確認。 ・2階の映像音響ライブラリー資料の整理が終了する。 ・出勤者 23名 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーバーが立ち上がる。ブックポストの返却処理開始。サーバ・プリンタの動作確認。 ・Webからの検索・予約は不可。 ・出勤者 29名 電話対応 91件
3月26日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・伊東豊雄建築設計事務所を中心とする設計、施工、保守等各担当者による詳細な被害調査と復旧に向けた検討会議開催。 ・出勤者 9名 	<ul style="list-style-type: none"> ・29日の3階開架コーナー整理に向けての準備。 ・出勤者 17名 電話対応 41件
3月27日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・地下1・2階書庫の安全確認 ・本格的な開館に至る各段階の利用想定と当面の仮事務所移転準備 ・出勤者 9名 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下1・2階の書庫整理。地下2階は整理可能な棚のみ整理。 ・出勤者 13名 電話対応 47件
3月28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・一部職員の自宅待機が終了し、全職員が通常出勤する。 ・出勤者 33名 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下2階集密書庫はフックが1箇所はずれたのでジャッキで上げて整理する。 ・地下1階はネットワーク書庫のみ整理終了。 ・出勤者 8名 電話対応 32件
3月29日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・3階南側の破損ガラス撤去。空調機のフィルター交換。(4tトラック1台分) ・メディアテーク全職員によるミーティング(復旧の進捗と今後の見通し、7階機能の2階への仮移転等について) ・出勤者 35名 	<ul style="list-style-type: none"> ・他館から18名の応援を得て3階の一般書コーナーの落下資料整理。 (3分の2終了) ・出勤者 34名 電話対応 66件

日 付	せんだいメディアテーク	市民図書館
3月30日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7階オフィス、スタジオ等の2階への移転作業を開始する。 ・ 外周部の危険物の撤去に伴う安全対策(バリケード)を軽減する。 ・ 出勤者 34名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他館から31名の応援を得て3階の一般書コーナーの落下資料整理。ほぼ終了。 ・ 全館担当者会議開催。今後の図書館の対応を協議する。 ・ 出勤者 35名 電話対応 36件
3月31日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7階オフィスの2階への移転準備作業を継続 ・ 出勤者 31名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時館長会議開催。 ・ 避難所への配本準備作業。 ・ 地下1階一部書架整理。 ・ NECがハブの交換、地下2階サーバーの点検。 ・ 出勤者 32名 電話対応 45件
4月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7階オフィスの2階への移転準備作業を継続 ・ 復旧に向けた緊急工事と本格的改修の進め方について、関係者が現場を見ながら協議 ・ エスカレータ等の点検 ・ 仙台市都市整備局営繕課が確認のため来館 ・ 3階の照明交換 ・ 出勤者 24名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所への配本開始。 ・ 出勤者 21名 電話対応 35件
4月2日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7階オフィスの2階への移転準備作業を継続 ・ 東京などで活動する市民メディア関係者が来館し、仙台での活動が検討される。 ・ 出勤者 6名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時窓口設置準備開始(移動図書館車の搬入・貸出本準備作業・業務基本ルール作成) ・ 出勤者 13名 電話対応 23件
4月3日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7階オフィスの2階への移転準備作業を継続 ・ 復旧工事の準備や日程調整、震災に伴う新年度事業の組み換えのための説明資料の作成 ・ 出勤者 5名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動図書館車への一般書搭載。 ・ 地下2階集密書庫のみ整理未了。 ・ 出勤者 14名 電話対応 5件

日 付	せんだいメディアテーク	市民図書館
4月4日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階オフィスの2階への移転準備作業を継続 ・震災に伴う新年度事業の組み換えのための関係者による調整、検討 ・出勤者 24名 	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤者 10名 電話対応 35件
4月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階オフィスの2階への移転準備作業を継続 ・震災に向けた新しい事業計画の検討 ・エレベータの業者来館 ・出勤者 18名 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館車への児童書搭載。 ・太白図書館臨時窓口へ応援嘱託職員2名派遣。 ・出勤者 25名 電話対応 8件
4月6日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階オフィスの2階への移転準備作業を継続 ・震災に向けた新しい事業計画の検討 ・出勤者 25名 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時館長会議開催 ・太白図書館臨時窓口へ応援職員1名派遣。 ・8日の臨時窓口開設決定に伴う広報・準備。 ・出勤者 28名 電話対応 6件
4月7日(木) 未明に余震	<ul style="list-style-type: none"> ・7階オフィスの移転がほぼ完了し、2階フロアで業務を開始 ・1階の仮事務室の撤去作業 ・出勤者 29名 	<ul style="list-style-type: none"> ・8日の臨時窓口開設決定に伴う準備。 ・出勤者 28名 電話対応 1件
4月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・前夜の余震により、半壊状態の7階の吊り天井が落下する。 ・建物の躯体には被害なし ・電気、水道、ガスに被害なし、 ・エレベータは緊急停止状態 ・出勤者 24名 	<ul style="list-style-type: none"> ・余震により2階資料2割、3階資料8割が再び落下。 ・市民文化事業団の職員十数名が書架整理応援(17時まで) ・2階書架整理完了。3階5割完了。 ・臨時窓口開設を9日へ延期。
4月9日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民図書館と同時に、メディアテーク西側において、映像音響資料の貸出等を開始する。(4/30まで) ・東京や京都から支援組織のメンバーが来館し、文化支援や連携の在り方について意見の交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアテーク西側の臨時駐輪場において移動図書館車による図書資料の貸出等臨時窓口の開始。 P22「臨時窓口利用実績一覧」参照

日付	せんだいメディアテーク	市民図書館
4月10日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階の落下した吊り天井の撤去のための事前準備作業に着手する。 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月11日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・1階のリブガラスの取外し作業 ・臨時窓口 休館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 休館
4月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による全体会議 ⇒新年度の事業、再開に向けて等 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月13日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・エスカレータ、防火扉等の修繕工事が始まる。 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月15日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・6階女子トイレの天井の仮復旧 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月16日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上の上部解放ガラスの修復が終了 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月17日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月18日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・消火水槽の補修を開始 ・市民図書館のガラス破損部分の仮補修 ・東北地方のミュージアム状況調査に着手 ・神戸での災害復興時の文化支援の事例について勉強会 ・臨時窓口 休館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 休館
4月19日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階の北側、東側の吊り天井の取外し作業に着手する。 ・全職員による全体会議 ⇒開館に向けた準備、今後の事業展開の確認等 ・臨時窓口 開館 (雨のため一部休館) 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館 (雨のため一部休館)

日 付	せんだいメディアテーク	市民図書館
4月20日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階の吊り天井の取外し作業が本格化する。 ・エスカレータ壁面ガラスの補修作業 ・東北地方のミュージアム状況調査の第1段階が終了する。 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月21日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階の吊り天井の取外し、耐火被覆補修、エスカレータ周辺の作業を継続 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省による施設の被害状況の視察 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階の吊り天井の取外しがほぼ終了する。 ・空調ダクトの修繕が終了する。 ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月23日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月24日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館
4月25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・7階の吊り天井部材の搬出作業 ・臨時窓口 休館 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 休館
4月26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民図書館とメディアテークの一部開館の予定について記者発表 ・臨時窓口 開館 	
4月26日(火) ～ 4月30日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時窓口 開館 	
5月1日(日) ～2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・開館準備 ・移動図書館車による復興イベントへの展示、貸出しの準備 	
5月3日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアテークの業務の一部と市民図書館の業務を再開する。 <p style="text-align: center;">P23「館内再開」参照</p>	

図書館コンピューターシステム復旧作業の経緯（3月11日～3月25日）

日付	作業内容	業者作業（NEC）
3月11日 （金） 地震発生	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生後まもなく停電。職員、利用者とも全員館外へ退避。一時館内立入禁止となる。 ・揺れの収まった時点で手荷物回収のため建物内部への侵入が許可された。この際、バッテリーで動作していたノート型の業務端末を可能な限り正常終了させる。 ・地下サーバ室の状況を確認。外観はほぼ正常でサーバラックの倒れ、乱れ、他機器の損傷は認められず。 ・以後、その他の建物内の損傷が激しいため、安全確認終了まで内部への出入りが原則不可となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔操作による状況確認
3月13日 （日）	<ul style="list-style-type: none"> ・（NEC営業担当者、図書館スタッフが集合していた本庁生涯学習課へ来庁。館内出入り不能のため挨拶のみ。） 	
3月15日 （火）	（建物の安全確認が一段落し、ヘルメット着用・名簿記載の上で進入が可となる。）	
3月17日 （木）	<ul style="list-style-type: none"> ・動作確認のため、地下サーバ室のサーバに電源投入。図書館全館（7館）の端末からアクセステストを行い、一応の正常動作を確認する。揺れによるハードディスクへの影響がなく、無停電電源装置（以下UPS）により正常に機器の動作終了されたものと解される。 ・データの状況は未確認。 ・サーバ室の空調設備については未確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器動作確認
3月18日 （金）	（メディアテークの安全確認が進み、3階事務室まではヘルメット着用なしでも進入可となる）	
3月22日 （火）	<ul style="list-style-type: none"> ・7階に設置されていたWebサーバがスプリンクラーの放水等による影響を受けておらず、正常であることを確認。同時に地下サーバの一部に電源投入し、「当面休館」の告知を行なうべくHP更新を試みるも失敗。（地震以前から動作不安定だったcgi（ウェブサーバから外部プログラムを呼び出すためのインターフェース）の掲示板が更新を受け付けなかったもの。cgiの更新にはセキュリティ上地下サーバの電源投入を要するが、地下サーバ室に空調を利かせられないため連続運用不可であり、細かい操作はできなかった。） ・データを物理バックアップする磁気テープ（以下LTO）のドライブが揺れにより破損して、要交換であることを確認。 ・市民図書館で業務端末からプリンタへのデータ送信ができなかったことについて、地下のハブの何台かを立ち上げることで一応の解決をみる（1日1回程度以上の加熱の有無のチェックと10分程度の要換気） 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器動作確認 ・HP更新(失敗) ・一部HUB電源投入

日付	作業内容	業者作業 (NEC)
3月23日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> サーバ室の空調機器の動作及び空調機器の監視システムの動作を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 空調機器動作確認 (smtによる)
3月24日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> サーバ室の空調及び監視システムが正常動作しているものと判断されたので、破損のあったLTOドライブを交換した上、地下サーバ電源投入。予約メール、自動電話を発信しないものとする設定を行った上連続運用開始。ただし、Webからの予約、検索をカットするため、一部サーバは電源未投入。 7階サーバに電源投入。22日に一度失敗したHPの更新を行う。以後7階サーバも連続運用開始。(7階の空調はこの季節であれば当面問題ないであろう旨をsmtより確認。) データはシステム停止までの処理内容を正常に記録しているものと予想されたので特にチェックは行っていない。 (地震発生当日の何時までのデータが正常保存されているかの確認が困難) 	<ul style="list-style-type: none"> 一部機器交換 動作確認 設定変更 (予約メール停止) HP更新
3月25日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 市民図書館にて個々の端末よりのシステム動作確認。正常動作しているものと判断されたので、返却等一部処理を開始。他の各館にもシステムの動作確認を依頼。 データの状況を確認するも、3/11の地震発生当日の日報が出力されなかった。NECからは「日次のバッチ処理を経ていないためと思われる。手動出力すれば出るのではないか」との回答。なお、3/10の日報は正常出力された。 HP更新は通常通り行うことができる状態となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 電話で状況について相談

④ 臨時窓口の開設（4月9日～30日）

市民図書館では、当初、4月8日（金）からせんだいメディアテーク西側駐輪場において、移動図書館による臨時窓口開設の予定で準備を進めていたが、8日深夜の余震（震度6弱 M7.4）により、再度、図書資料等の大量散乱が生じたため、臨時窓口の開設を1日延期し、翌日9日（土）から貸出と返却等の利用を再開した。

ただし、利用時間は10時から16時までとし、貸出数は一人5冊までとした。

（雨天時は中止あり）

これと同時に、メディアテークの映像音響ライブラリーの利用も再開した。

また、メディアテークにおけるバリアフリーの録音図書の郵送利用と教材ライブラリーの利用も再開した。



臨時窓口 利用実績一覧(4月9日～4月30日)

月日	天気	最高気温/最低気温 (気象庁発表)	せんだいメディアテーク							市民図書館				
			映像・音響ライブラリー				バリアフリー	教材ライブラリー			利用者数	登録者数	貸出数	返却数
			利用者数	登録者数	貸出数	返却数	貸出数	貸出数	返却数	予約数				
4/9(土)	曇	10°C/8°C	7	0	10	32					67	0	210	784
4/10(日)	晴	13°C/5°C	35	0	51	70					271	3	904	1,267
4/11(月)	曇	14°C/5°C	0	0	0	3		1	3	8	0	0	0	101
4/12(火)	晴	11°C/3°C	14	0	23	41					151	1	457	702
4/13(水)	晴	19°C/2°C	15	0	24	52					138	3	395	929
4/14(木)	晴	21°C/6°C	33	0	57	78		0	2	1	172	3	542	830
4/15(金)	晴	19°C/9°C	15	0	22	50	18	0	0	1	147	1	445	792
4/16(土)	晴	18°C/9°C	38	0	77	85		0	0	0	185	1	544	1,082
4/17(日)	晴	15°C/7°C	40	0	62	84		0	0	0	233	4	683	1,129
4/18(月)	晴	13°C/4°C	0	0	0	0		1	0	1	0	0	0	0
4/19(火)	雨	9°C/1°C	16	0	20	39		1	0	1	46	0	113	549
4/20(水)	曇	11°C/3°C	25	0	38	73		1	0	0	164	6	468	744
4/21(木)	晴	11°C/5°C	29	0	46	71		2	0	0	178	4	512	752
4/22(金)	曇	10°C/8°C	15	0	25	27	4	0	1	2	62	0	174	433
4/23(土)	曇	13°C/9°C	13	0	20	36	0	0	1	0	38	1	93	714
4/24(日)	晴	17°C/9°C	58	0	105	109	0	1	0	0	374	7	1,119	1,662
4/25(月)	曇	14°C/7°C	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
4/26(火)	晴	17°C/7°C	50	0	83	111	5	0	0	0	249	4	794	1,280
4/27(水)	晴	19°C/11°C	35	0	62	79	6	0	1	0	315	5	1,001	1,448
4/28(木)	晴	21°C/10°C	19	0	32	40	2	0	0	0	103	0	305	708
4/29(金)	晴	15°C/8°C	36	0	58	66	1	1	0	0	178	7	546	814
4/30(土)	曇	19°C/8°C	33	0	57	80	4	0	2	0	110	2	336	638
合計			526	0	872	1,226	40	9	10	15	3,181	52	9,641	17,358

⑤ 館内再開（5月3日～）

館外での臨時窓口の開設は4月30日までで終了とし、5月3日から市民図書館の業務とメディアテークの業務の一部が館内において再開された。

7階の復旧工事のため、メディアテークの管理係と企画活動支援室が2階フロアに移動して業務を行うこととなった。

また、従来の企画活動支援室の企画支援班、学芸班、編集班を、震災対応の調整広報班、スタジオ班、スクエア班に再編した。

これに伴い、2階フロアにあったメディアテークの映像音響ライブラリーの視聴コーナーは休止し、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設、同様に2階フロアの市民図書館の新聞雑誌の配架・閲覧コーナーは3階の市民図書館内に移動して利用に供した。

◎5/3～5/31

- | | | |
|---|---|---------|
| ○メディアテーク（2F）
（映像・音響、教材ライブラリー、バリアフリー）
*館内視聴コーナーは休止、月曜日休館 | } | 10時～18時 |
| ○市民図書館（2F、3F、4F） | | |

◎6/1～

- メディアテーク（2F）
- ・映像・音響ライブラリー・・・平日 10時～20時
土日祝 10時～18時
*館内視聴コーナーは休止
 - ・教材ライブラリー・・・平日 9時～20時
土日祝 9時～18時
休館日・・・月曜日、第4木曜日、12/28～1/4
- | | | |
|-------------------------------------|---|-----------------------|
| ・施設業務
・調整広報班
・スタジオ班
・スクエア班 | } | 9時～20時 |
| | | 休館日・・・第4木曜日、12/29～1/3 |
- 市民図書館（2F、3F、4F）
- 平日 10時～20時
 - 土日祝 10時～18時
 - 休館日・・・月曜日、第4木曜日、12/28～1/4

⑥ 復興イベント

「歩きだすために」

震災後2ヶ月足らずの5月3日から、メディアテークと市民図書館の再開に併せて、1階のオープンスタエアにおいて、市民ひとりひとりが自分の気持ちと向き合い、再始動に向けたきっかけをつかむ一助になるような「ひろば」を設置し、「ひとの話をきく」「ひとが語る」場として、大人向けの講演やトーク、子ども向けの読み聞かせを行うとともに、震災関連資料等の展示や各種情報の提供を行った。

① 5月3日（火・祝） 13:00～15:00

仙台の演劇人によるオープニング ～宮沢賢治の詩を読む～

② 5月4日（水・祝） 15:00～16:30

出演；鷺田清一（大阪大学総長：哲学者）

③ 5月5日（木・祝） 15:00～16:30

出演；伊東豊雄（建築家）、小野田泰明（東北大学教授）

④ 5月6日（金） 15:00～16:30

出演；加藤種男（財団法人アサヒビール芸術文化財団事務局長）、タノタイガ（美術科）

⑤ 5月7日（土） 13:30～15:00

出演；とよたかずひこ（絵本作家）

⑥ 5月3日（火・祝）～8日（日） 10:00～18:00

- ・子ども向けの読み聞かせ 11:00～11:30（延べ132名）
- ・児童書のテーマ展示「25年読み継がれた本たち」「ブックツリー展示」・閲覧・貸出
- ・移動図書館の展示および貸出
- ・震災防災関連資料、トークゲスト関連資料等の展示
- ・災害関連資料・パネル展示・図書館情報等の情報提供

また、5月8日以降も貸館が入っていない日は、震災復興に動く仙台の人々に向けた治癒・交流・再活性のための「広場」として、年間を通してトークセッション、カフェイベント、市民団体等の活動会などを実施した。

- ・アーティストによる「考えるテーブル」デザインプロジェクト
- ・東北ゆかりの文化人、アーティスト、その協働者らによるトーク、公開会議など
- ・震災復興パネル展示
- ・震災ボランティア支援プロジェクト（活動報告の支援や情報提供など）

さらに、市民による震災復興情報の発信と記録の支援として

- ・市民、市民メディア活動者、アーティストらによる震災復興に関わる取材活動、記事制作、配信の支援
- ・こどものための映像ワークショップを通年開催し、こどもたちが震災後の仙台の街・人・活動を記録

- ・市民参加による震災復興に関わる番組制作とケーブルテレビでの放送
- ・上記の活動等により制作された映像、音声データ、テキスト等のアーカイブ



「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

未曾有の大災害の記憶と記録を、生きた教訓として、後世に、他の地域の人々に語り継ぐために、震災とその復旧・復興のプロセスを、専門家、市民、メディアテークが協働し、さまざまなメディアを活用して独自に記録し、収録された映像や写真、音声等を「震災復興アーカイブ」として保存し発信する拠点として発足した。

平成23年12月末現在	・参加者	90名
	・映像	304本
	・写真	9, 170枚
	・音	89本
	・冊子	2冊

「考えるテーブル」

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場として発足し、トークイベントや公開討議、市民団体等の活動報告会など、多様な催しに利用されている。

平成24年1月末現在 ・開催イベント等 延べ 60回
・参加者 延べ 24,560名

⑦ 避難所への配本、読み聞かせ

・4月1日(金) 6箇所へ 1,070冊配本
仙台市立各図書館への配本支援・4月1日～4月7日 28箇所 45回 4,028冊
・4月5日(火)・7日(木) 2箇所へ 読み聞かせ(22名参加)

⑧ 応援活動

メディアテークと市民図書館の職員は、仙台市の要請を受けて市内に開設された被災者避難所での受付業務を行った。

・従事期間 ; 3月12日～3月27日
・従事時間 ; 8:30～20:30
20:30～8:30
・従事日数 ; メディアテーク 延べ 8日間
市民図書館 延べ 13日間
・従事人数 ; メディアテーク 延べ 16名
市民図書館 延べ 20名

また、被災証明の発行業務においても、仙台市の要請を受け職員を動員した。

・従事期間 ; 7月25日～8月26日
・従事時間 ; 8:30～17:00
・従事日数 ; メディアテーク 15日間
市民図書館 延べ 9日間
・従事人数 ; メディアテーク 延べ 3名
市民図書館 延べ 9名

さらに、市民図書館では、民間住宅を借上げて居住している避難者の訪問調査に職員を動員した。

・従事日 ; 8月7日 1日
・従事人数 ; 4名

4 震災を振り返って ― 職員等の体験談 ―

せんだいメディアテーク

管理係長 滝沢 博行

2011年3月11日（金）14時46分、私は7階オフィスの自分の座席におりました。この日は遅番の日直につき13時30分に出勤し、前日からの書類の処理に追われていた時です。激しい揺れが事務室内を襲いました。直ぐに職員に対して机の下等に隠れるよう指示を出しましたが、ものすごい揺れとともに、「カシャン！カシャン！」と何かがぶつかる音が響き、声がかき消されました。

それと同時に南側天井が落下し、スプリンクラーからの水の噴き出す音がし、そして非常放送の「火事です、避難して下さい！」が繰り返し放送され、7階はとんでもないことになっていたのです。この事態は普通ではないことが直ぐに分かりましたので、自衛消防隊を設置すべく、揺れが収まると同時に13番チューブ（避難階段専用）を夢中で降りました。

今考えてみると、もしこの階段が途中で破損していた場合には、そこから転落していたかも知れません。

本来であれば、揺れが収まった後に職員が避難経路の安全を確認し、1階まで利用者を誘導するはずでしたが、今回は地震と同時に火災時の避難放送も流れたため、来館者が先に階段を使って階下へ避難を開始した階がありましたので、確認作業が後手になったことは反省点です。

まず、施設職員に必要なことは冷静になることです。冷静に状況を判断し落ち着いた行動、落ち着いたアナウンス、これが利用者も落ち着かせる結果となります。今回の地震では身をもって体験しました。アナウンスの声が上がっていると、それにつられ利用者も落ち着いた行動が出来なくなると言うことです。幸いにも、メディアテーク内では怪我人がなかったことは、本当にほっとしています。当日の作業が終了し自転車で帰宅したのですが、あのときの星空は自分が子どもの時と同じ輝きで、すごく不思議な感覚がよみがえったことを覚えています。

改めて地震の当日を振り返ると、「ああすればよかった」という反省ばかりですが、その後は早期開館へ向けてのさまざまな作業をこなし、職員一丸となってひとつの目標に向かったことによる連帯感がありました。

本当に大変な事態でしたが、職員の責任感、強い意志で乗りきり、最後は人の力であるということ、そして沢山の人々にメディアテークは支えられていることを実感しました。

せんだいメディアテーク

企画・活動支援室 主任学芸員 清水 有

3月11日。14時46分。マグニチュード9.0。後に東日本大震災と呼ばれる地震で、せんだいメディアテークの7階の天井は落ち、3階のガラスの一部が壊れ、図書館の本はほとんどが棚から流れ出た。永遠に続くかと思うすさまじい揺れの長さは、この建物に様々な大小約120ヶ所のダメージを与えた。

もう混濁した記憶ではあるが、覚えているのは13番チューブの避難路を伝ってメディアテークにいらっしゃっていたお客様や職員に、怪我がなく全員避難ができたことだ。幸いだったと思う。

繰り返し来る余震にまんじりともできない夜を過ごし、明けて12日の土曜日から、職員は、建物を復旧する班や、避難所のお世話をする班、食料などを調達する班等に分かれ仕事は始まった。

僕は学生さんやカメラマンと進入禁止になっている3階以上の階へ階段から上がり、パソコンや貴重品など必要な物を取っては戻ってくることからはじめた。6階や5階へ避難階段から上がり再度暗闇を見回せば、無残に落下して原型をとどめなかった数点の模型に加えて、漏れたスプリンクラーの水にふやけたもの、可動したパネルに押しされ落下し、つぶされた模型が散乱していた。これまで展示していた作品がこんな無惨なことになったことは一度も経験がなかったので、絶句して何も考えることができなかった。

模型を返したい、返せない、返す燃料がない、道が通れない、トラックがない等、一時期はすべての返却をあきらめてもらう声明文を出して頂いたりもしたが、1ヶ月後の4月11日から1週間、様々な苦勞を分かちながらアドバイザリーボードの先生方や、学生さんや運送業者の皆さん、職員たちの総出ですべての模型の返却が終わった。が、僕の心象風景は様々な映像に映し出された沿岸部の大津波の後の瓦礫と、5、6階のあちこちに吹っ飛んでいった模型群の光景がオーバーラップしている。その数日後、久しぶりにまだ復旧できていない7階に降りてみた。長い悪夢から覚醒した気がした。

せんだいメディアテーク

情報資料係 矢野 恵子

情報資料係の職員としてメディアテーク 2階に勤務する私は、その日、12時から出勤していました。

パソコンに向かってしていると、カタカタと小さな揺れを感じました。フロアにいるお客様の様子を確認するため、事務所内の職員が何人か立ち上がりましたが、またたく間に揺れは大きくなり、立ってられないほどになりました。

建物全体が大きくきしみ、不気味な音を立てていました。机の下にもぐりこみ、揺れが収まるのを待っていると、天井の蛍光灯が何度か点滅し、消えてしまいました。ついていたパソコンの画面も消え、警報音があちこちから聞こえていました。

長い揺れがようやく収まり、薄暗いフロアの様子を見に行くと、まず目に飛び込んできたのは床に散乱した資料です。DVDやCDなど、上段にあったものがほとんど落下し、あちこちに破片が飛び散っていました。

館内には火災発生非常放送が流れていました。対面朗読利用のために来館されていた方から避難される途中に「火災が起きているの？」と尋ねられましたが、このフロアではないこと、起きているとしても地階であることをご説明すると安心されたようでした。来館されていたお客様は、ほとんどが落ち着いて行動されていたようで、揺れている最中も悲鳴や大きな声はまったく聞こえませんでした。

避難誘導を終え2階フロアから外を窺うと、向かいのビルで働いていた人たちや、隣の結婚式場から避難したと思われる盛装した人たちが避難している様子が確認できました。私達も外へ避難し、ふとつけた携帯のワンセグの小さな画面には「宮城震度7」という文字が出ていました。その数字の大きさと、充電が切れてしまうのでは、という不安ですぐに消してしまい、その後の情報はラジオだけという状況が翌日まで続きました。そのため、沿岸部を襲った津波のすさまじさもわからず、後に言われるような歴史的な大震災になっていたとは想像もしていませんでした。

公共施設の職員としての的確に避難誘導できたかどうか、客観的に判断はできませんが、一人の負傷者も出さずに済んだことはありがたいことでした。

時間が経ち、メディアテークの周辺はほとんど日常を取り戻しました。これからは、まだ復興への一歩を踏み出せない皆様のために何ができるか、考えていかなければならないと感じています。

仙台市民図書館

奉仕整理係 主任 榎 裕子

その時、私はメディアテーク4階にある市民図書館レファレンスコーナーのカウンター業務をしていました。学生の春休み期間であったため閲覧席はほぼ満席で、その他にも資料の複写をされている利用者などがいて、大変混雑していました。

ドーンと初めの揺れが来たときは、利用者に書棚から離れるように呼びかけたり、落ち着いて行動することができましたが、徐々に激しい横揺れが襲い、立っていることすらままならない状況になり、近くにいた利用者を支えてしゃがみこんでしまいました。

今までとは明らかに違う激しい横揺れに耐えながら、一月前に起きたニュージーランドの地震のことが頭をよぎりました。天井や床が落ちてしまうのではないかと・・・。

長い長い3分間が過ぎ、利用者を避難誘導しようと階下のフロアを見ると、すべての本が棚から落ち、吊り照明は、激しく揺れていて今にも落ちそうな状況でした。

避難場所で利用者や職員に負傷者がいないことが確認され、ホッとしたことを覚えています。

建物の安全確認ができるまでメディアテークは立ち入り禁止となり、私たち職員は仙台市役所職員として、避難所勤務などに従事しました。

そして、再開に向けての準備が始まりました。すべての本を元の棚に、すべての備品を元の位置に。震災前の姿に戻るんだという気持ちで作業を進めました。4月7日の余震では戻した本がまたしてもすべて棚から落ちてしまいました。気落ちしましたが、再び元に戻す作業を進めました。

迎えた5月3日の再開の日。開館時間前からお待ちになっている方も多数いらっしゃいました。皆さんも早く元の日常に戻りたいと思っていらっしゃったのだと思います。

市民の日常の中にある図書館を目指して行きたいと感じた再開の日でした。

(当日 4階カウンター担当)

仙台市民図書館

奉仕整理係 主事 菅原 静治

突然の揺れ、前日にもあった地震からまたか、と思いつつ昨日ほどにはならないだろうと周りを見回す。そこで予想外に強い地震となりカウンターにしがみつく。

強くなる揺れ、照明をみれば天井にぶつかるほどに振り回されている。点滅し今にも消えてしまいそうな照明。改めて周りを見回すと、がくがくと揺れる書棚、放り出される本。すぐに収まると思っていた揺れは予想をはるかに超えて揺れ続けていた。

天井からは何かが落ちてきている。照明がちぎれるのも時間の問題だと思えた。それでも徐々に揺れは収まり、照明は消えたものの何とか避難誘導が可能なほどには落ち着いた。メディアテーク内は危険と思われたので、裏手にお客様を誘導した。

まだ寒い季節だった。雪もちらついてきた。周囲はある程度落ち着いたと判断し、被害確認のため2階、3階を調査。

2階エレベータ前、ハードカバーの本と同じくらいの大きさのコンクリートの塊が剥がれ落ちていた。頭に当たったときを考えてゾッとした。

3階、本棚の本がほとんど落ちており、人が埋まっているのではないかと、思えるほどだった、幸い巻き込まれた方はいなかったが・・・。

コインロッカーが横転していた。縦に戻すだけで10人近くの力が必要だった。こちらにも幸い下敷きになった方はいなかったが、刺さったままの鍵が曲がっていたことが想像力をかきたてる。

ある程度の安全を確認したところでお客様を伴い必要なものを回収、しばらくするとあたりは薄暗くなっていた。

明日以降はどうなるのかと考えつつも、仕事ができる状況ではないため帰宅。途中のコンビニはすでに閉店していたが、明日になれば開店するだろうと、このときはまだ楽観視していた。

2時間かけて家に帰る途中、連絡が着く。危険なため車で一晩過ごすということだった。帰ってみるとご近所も車で寝るようだ。あたりはもう真っ暗だ。そして私の3月11日は終了した。まだ、初売りで買ったTVが割れていることも知らずに。

(当日 3階カウンター担当)

仙台市民図書館

奉仕整理係 主任 荒井 千鶴子

間もなくカウンター交代の時刻。ブックトラックの本を棚に戻そうと手を伸ばしたそのとき、ドーンと体が浮くような衝撃を受け、閲覧室のガラスが小刻みに激しく揺れだした。（これは大きい。とうとう宮城県沖地震がきた）と瞬間に感じた。

「本棚から離れてください・・・」2階職員全員で『おはなしのへや』にいた親子に声を掛けカウンターの利用者側に立った。

この建物は大丈夫だろうか心配になったが、揺れが小さくなったとき、警備隊長の館内放送があった。「この建物は地震に強い建物です・・・」その落ち着いた声に安心した。その途端、大きな揺れが再びきた。今度は立っているのがやっとだった。カウンターの下に潜りながら、絵本や紙芝居が地震の揺れに合わせるかのように、ばたばたと音を立てながら落ちていくのを見ていた。地震が収まった。ホッと、職員全員で児童書コーナーを見回った。（よかった。親子は無事だった）

今度は雑誌コーナーへ行った。うずくまっていた利用者の方々の背中を撫でながら「大丈夫ですよ。心配ありませんよ」と声を掛けて回った。

火災報知機が鳴り出し、どこかで火事起きたのだろうか心配しながらも、上の階から避難してきた利用者の方々にも「大丈夫ですよ・・・」と言いつけた。「大丈夫」とは私自身にも言い聞かせる言葉だった。

定禅寺通り側に避難を終え、メディアテークの建物を見た。3階のガラスが割れ、7階から水が流れ落ちているのが見えた。利用者全員ケガも無く、無事避難できたことが何よりだったと安堵した。

津波の影響で自宅に行くことができたのは2日後だった。家は浸水し、家具や集めていた絵本など全て泥に濡れていた。傷心で出勤した私に、職場の仲間から温かい言葉と励ましが待っていた。『私には図書館がある。心配してくれた職場の仲間がいる。頑張ろう』と気持ちを新たにしたのであった。

(当日 2階カウンター担当)

私たち東北共立は、メディアテーク 1 階オープンスクエア、7 階スタジオシアターでのイベント運営管理に携わっています。

震災当日は、1 階オープンスクエアにて翌日に行われるイベントの準備日でした。スタッフ全員、会場内でステージ設営や機材の準備などの作業にあたっていました。

大きな揺れとともに、携帯電話の緊急地震速報が鳴りました。スタッフの一人が大きな声で「地震です!」と叫びました。私たちは天井からの落下物に注意しながら、会場内に設置してあった大型の自立スクリーンの足をつかみ倒れないように支えました。私たち自身も何かにつかまっていなくて立ってられない状況でした。

オープンスクエアでは、舞台装置の照明バトンが天井で激しく揺れていました。また吊り下げてある機材も大きく揺れ、危うく天井に衝突しそうなところでした。バックヤードのシャッターが上下に大きく揺れ曲がり、可動壁も前後に動いていました。停電になり、警報機の音が鳴り続くなか、長い揺れに耐えながら「まだか、まだか」と早く揺れが収まってほしいと思っていました。通常地震ですと構造上 1 階はほとんど揺れを感じません。しかし今回は大きな揺れを体験し、ガタガタと音を立て続ける会場内の様子を見て、これは非常に大きな地震であることは一目瞭然でした。

地震の最中は、まず身の安全を守ること、特に落下物や転倒の恐れのあるものに注意していました。揺れが収まった後にスタッフにけが人がいないことを確認し、二次被害の防止に努めました。導線を確認し余震で転倒落下の恐れがある物はあらかじめ対処しました。幸い 1 階会場は準備中だったため利用者はいませんでした。私たちは他の階から降りてくる利用者に対し非常口まで誘導しました。誘導が済んだ後、私たちも定禅寺通りへ避難しました。館外は通行人や近隣ビルからの避難者で混雑していました。定禅寺通りではメディアテークの割れたガラスの落下があり危険だったので、通行人に「こちら側は危険です」と声をかけ、危険箇所はパーテーションで仕切るなどの作業をしました。

避難後はもう一度、館内の被害状況の確認をして、今後の運営について話し合いがもたれました。その時点では、まだ被害の全容は明らかになっていませんでしたが、翌日に控えるイベントの中止は避けられないことは確実でした。転倒破損した機材も多々ありましたので心配は増すばかりでした。また今後いつ頃から通常運営に戻れるのか全く見通しが立たず不安でした。

警備（ワールド警備保障） 但野 利美

警備で館内を巡回後、1階にて立哨していたところ、突然地震が発生し、少ししたら収まるかと思いきや、横揺れが長く続き、近くの手すりにつかまっていなくて立ってられないほどのものでした。（過去に体験した地震のなかでは、一番大きいものと感じた。）

それから、停電となったため5番チューブの階段や停止したエスカレータのところからお客さんがゾロゾロと降りてきたので、私は1階5番チューブ階段の入口の扉の前とエスカレータの前を交互に往復し、無我夢中でお客さんを非常口へと避難誘導を行いました。

お客さんが降りて来なくなったのを見計らって、まず、エスカレータをのぼって2階へ行き、残留者がいないのを確認した後、5番チューブの階段で上層階へ向かって駆けのぼり、同様に残留者がいないかを確認して回りました。

1階へ戻ったところ、職員から「外で上からガラスが落下してきてます。」と聞いたので、急ぎよ、外に出て中央監視室へ無線で連絡を入れ、人が建物に近づかないようにカラーコーンを設置した後、中央監視室へ戻った。

次に、館内の状況把握のため、5番チューブの階段から6階へ向かったところ、天井のいたるところからスプリンクラーの水が流れおちていた。（エレベーターのあるチューブの中も水が流れおちていた。）さらに、ギャラリー内は、机から作品が落ちてメチャメチャになっていて通することもできない状況でした。

3階については、図書館内にある本がほとんど本棚から落下しており、足の踏み場もない状況でしたし、南側のガラスが割れているのを確認した。

ほかのところも回り、天井やチューブ階段内の壁のひび、地下駐車場の出入り口の天井からの落下物など被害の状況を把握していくうちに、今回の地震のすさまじさをあらためて感じました。

1階受付（ビルワーク） 渡部 美奈子

私は、1階案内カウンターに鹿野さんと座っていました。カウンターにはお客様はおらず、オープンスクエアでは共立さんが明日のイベントの準備をしていて、またクレプスキュールカフェにはお客様がくつろいでいてといった、いつもと変わらない光景を見ていたとき、揺れを感じはじめました。一瞬、すぐ揺れは収まるだろうと思いましたが、またたくまに大きな揺れとなり、南側のガラスがガタガタ、ガタガタと大きな音をたてて揺れつづけました。

普段カウンターにいて、聞いたことのない音に恐怖を感じました。鹿野さんと思わず手をつなぎ、立ち上がりました。1階を見まわすと、あちらこちらにしゃがんでいるお客様がいました。天井のガラスの仕切り板が、ガタガタと揺れているその下でしゃがんでいるお客様がいたので、頭上に注意していただくように声がけをしました。

揺れが収まったかなあと思ったとき、5番チューブからお客様が整列して降りてきたので扉を全開にし、南側の正面出入り口へと誘導しました。

そして、お客様が館内に入ってこないようにするため、注意書きを入口に貼りつけました。その後、お客様が1階にいないことを鹿野さんと確かめ合い、北側の出入り口から外に出ました。

出口に向かう際、ショップの棚が倒れているのを目の当たりにしたとき、上のフロアにいた人達、自宅や実家は大丈夫だろうかと様々な思いが頭をよぎりました。

外に出ると、すでに職員さん達が集まっていたので安心しました。それからは、早く家族や友人の無事を確認したい気持ちでいっぱいでした。

①どこにいましたか。

一階受付

②何の業務に携わっていましたか。

お客様への案内業務

③地震をどう感じましたか。

あまりに大きな揺れだったので、お客様もかなり動揺されていましたし、自分自身立っているだけで精一杯という感じでした。とにかくあのときは長く感じました。

④地震のときどのように対処しましたか。

すぐにストーブを消し、カウンターを出ました。警備さんのアナウンスがこもっていて、よく聞き取れず、最初の大きな揺れが収まるまでカウンターに掴まっていたと思います。それから、揺れが少し収まる合間にお客様の安全を確認し、すごい音をたてて揺れる朱門や天井のガラスが落下することを考え、そこから離れるようお客様に大声で叫んでいました。その後、5番チューブの階段からたくさんのお客様が降りて避難してこられたので、片側の扉のロックを解除して両サイドを開きました。下の駐車場へ行く階段の上部のコンクリートが砕けて落下していたので「余震がまだ続いていますから、落ち着いて避難してください！！足元の落下物にご注意ください！！！」と叫びながら、南玄関外に誘導しました。その後、トイレに逃げ遅れた人がいないか、怪我人はいないかを確認したはずなのですが、地震の後にトイレを利用しようとして入館し、真っ暗ななか用を足しておられる女性を発見したので、今すぐ避難していただくようお願いしました。それでも公衆電話やトイレを利用しようとして入ってくる人が何人かいたので、入らないようにお断りをしながら、玄関（4箇所）にベルトリールをして「入館不可」というような案内を作って貼りました。その後も、地下駐車場に車を入れっぱなしになっているので今すぐ出したいというお客様がいらっしやり、どうしたらいいのかわからず困っていたのを覚えています。

⑤どのように避難しましたか。

少し落ち着いたところに管理係や共立、カフェ、ショップの皆さんと北玄関から出て避難しました。しばらくの間、メディアテーク北側の民間の駐車場に集められて、携帯電話のテレビの速報をみんなで見ながら寒さを堪えつつ、次の指示を待っていました。

⑥何を考えていましたか。

まだそのときは、津波など起きていることも知りませんでしたので、明日はメディアテークは開館できるのかなぁ・・・ぐらいにしか思っていませんでした。でも少しずつ、これは大変なことになったなぁという実感がわいてきたように思います。

施設（石井ビル管理） 荒 健一郎

3月11日東日本大震災の日、私たち設備は、午後の作業も一段落し設備員全員が中央監視室にいた。先日も地震が発生したので、再点検や片付け等を終了させた後のことである。

自前の携帯電話から、聞いたことのない音と振動を感じた。（緊急地震速報）身構える間もなく、地響きみたいな音とともに激しい揺れが来た。私は昭和53年の宮城県沖地震も経験しているが、それ以上に思えた。

立っていることができず、しゃがみ込む。中央監視装置より警報が発報、重複して個々を特定できる状況ではなかった。また同時に悲鳴やガラスが割れる音等が激しく聞こえた。かなり長く揺れただろうか……。5、6分はあったと思う。

揺れが下火になり、設備員全員の無事を確認し、手分けして対応作業にあたった。

私たちは、取り残された人たちを懸命に探しながら揺れる5番チューブを駆け上った。3階の図書館は、本が9割かた棚からより落下しており、足の踏み場はまったくないが取り残された人たちはいない模様だった。

5、6階の人たちは、すでに避難していたが、展示物は崩れていたり落下している物もあった。7階に着くと、定禅寺通り側の天井はほとんど落下しており、埃が充満していた。取り残された人たちを探し、噴き出た水の原因を調査するが、大きな余震が続いており移動することができず、西側の避難通路入口で、手すりに必死になってしがみつきながら揺れが収まるのを待ったが、しばらくは動けなかった。脳裏に浮かぶ家族の安否を確認したい衝動にかられながらももくもくと復旧作業をこなした。

地下での作業を終わらせて1階の出てきたとき、ふと外を見ると雪が降っていた。この季節、雪が降ること自体は珍しくはないが、「何もこんなときに、積もるタイプの雪が降ることもないだろう。」と溜息をつきながらつぶやいたことを覚えている。

清掃（ビルワーク） 小山 洋

3月11日の地震のあったとき、私は搬入用エレベータで1階から2階へ移動し終わったところでした。搬入用エレベータの照明が消えた瞬間に、激しい揺れが始まりました。その後「地下1階で火災が発生」というアナウンスが流れ、搬入用エレベータの防火扉が勢いよく閉まってきました。揺れるなかで防火扉をかわし、清掃用カートを押さえながら、消火班という役目があったので、早く地下1階に向かおうという思いだけが先走りして、なかなか動けないでいました。その間、2階の事務室の棚などから様々なものが落ちてきて、ロッカーなども倒れ、人の悲鳴が聞こえました。

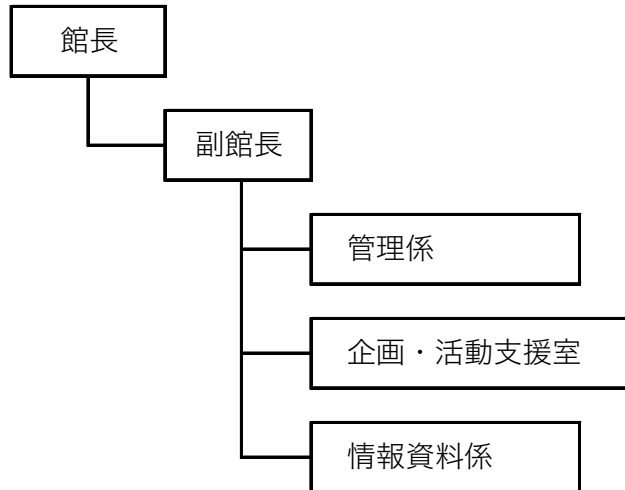
揺れが落ち着いた後、1階へエスカレータを駆け降り、地下1階へは階段を駆け降り、消火器を持って火元を探しているところへ、私たちのスタッフも駆けつけて、皆で火元を探していると、警備の方から誤報だった報告を受け、スタッフ全員で1階の外へ脱出しました。外に出てみると、7階付近から水が流れ出ていました。

建物の南面に人が近寄らないように、カラーコーンとロープでバリケードを築き封鎖しました。他にも関係の方々が作業をしておりましたが、家に一人でいる母親のことが心配でもあったため、18時30分ころ帰路につきました。

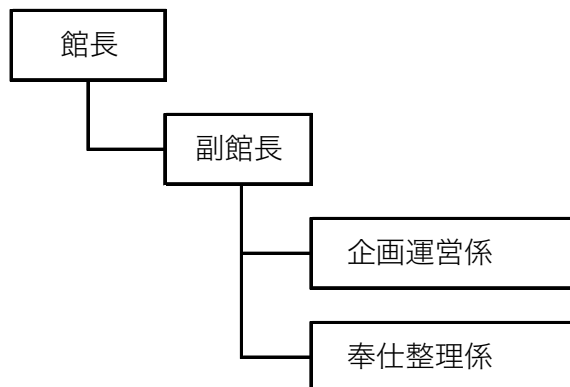
5 資料

せんだいメディアテーク内 組織

○ せんだいメディアテーク(財団法人 仙台市市民文化事業団が管理運営)



○ 仙台市民図書館



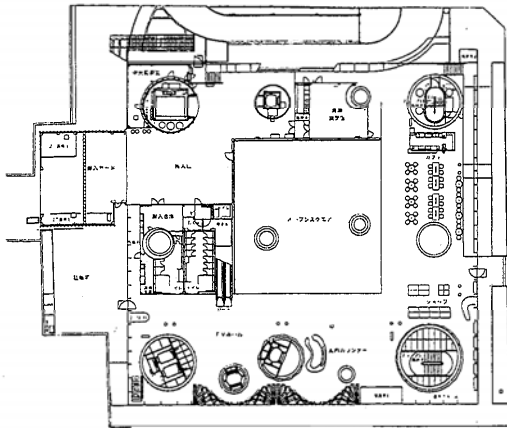
○ 業務委託業者

- ・ 映像・音響・・・(株) 東北共立
 - ・ 警備・・・ワールド警備保障(株)
 - ・ 施設・・・石井ビル管理(株)
 - ・ 清掃
 - ・ 受付案内
- }・・・(株) ビルワーク
-
- ・ ショップ
- } {メディアアシスト
クレプスキュールカフェ
(株) ニューアートディフュージョン

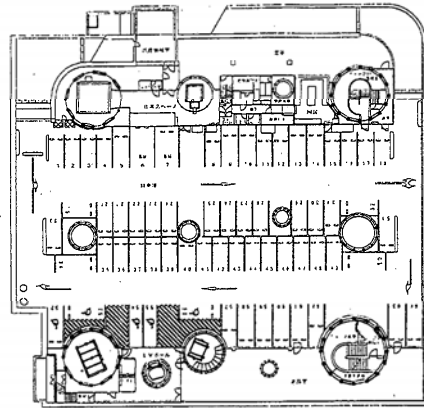
(H23. 3.11現在)

せんだいメディアテーク 各階見取図

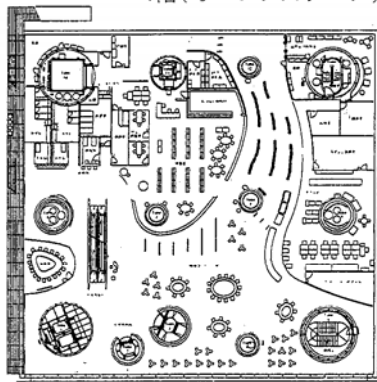
(H23.3.11 現在)



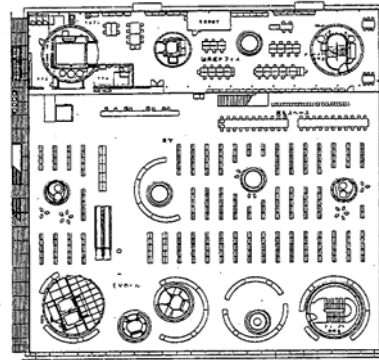
1階(オープンスクエア)



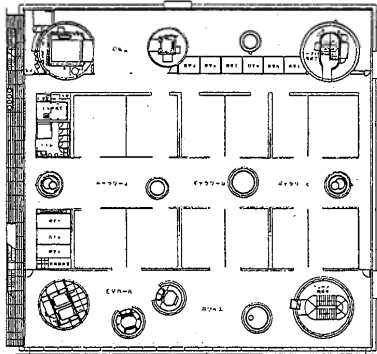
地下1階(駐車場)



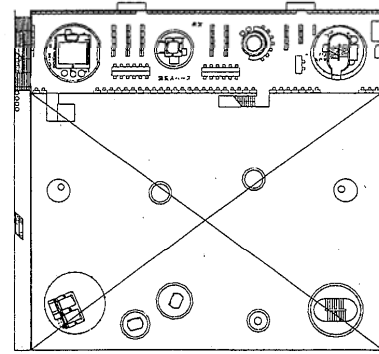
2階(AVライブラリー・児童書)



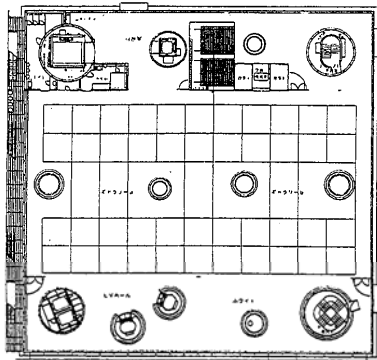
3階(市民図書館)



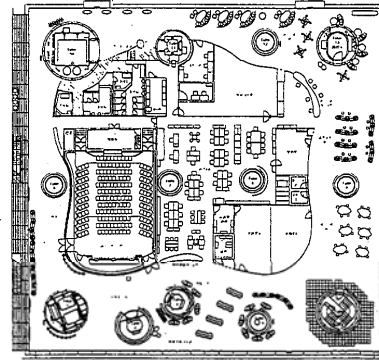
5階(ギャラリー)



4階(市民図書館)



6階(ギャラリー)



7階(スタジオ・オフィス)

6 編集後記

メディアテークが耐震性に優れた建築物とは認識していたものの、激しく長く揺れる恐怖の時間を体験した。館外に避難中も断続的に大きな余震が続き、雪が降り、気温が低下し次第に暮れる空模様と停電により、まったく明りのない街の不気味さのなかで、ラジオからの情報は、国内最大級の地震であること、太平洋沿岸に大津波が襲来していること、各地で甚大な被害が発生していることを告げており、職員や関係者等は恐怖感、焦燥感と絶望感に包まれていた。交通手段が完全に遮断された帰路は、街中が闇に包まれ、灯りといえば車両のライトだけが行き交う道を、足を棒にして2時間半歩き続けた。途中見上げた空には、地上で何事もなかったように星が輝いていたのが忘れられない。あれは神様のいたずらだったのだろうかと思えた。

この大震災に際して、メディアテークができることは何かを念頭に、文化、芸術そして情報提供こそが、今の市民、被災者等の心を少しでも癒すことのできるツールとなりうるのではとの思いで、復旧、復興への第一歩を踏み出した。

本冊子は、今回の未曾有の大震災によって被災したメディアテークの復旧までの道のりを、関係者の記憶と記録を基にまとめたものである。(せんだいメディアテーク T. Y)

あの日の揺れは6分続いたとのことだが、本当に長く感ずるものだった。当時、その日の大災害を知ることもなく、解散後の帰宅手段もなかった。やっとのことで家族と連絡が取れ、信号機が停止した夜道を何時間もかかって帰宅した。その後も停電、食料不足、ガソリン不足、水不足、公共交通機関のストップ等、何もかもが止まってしまった。

どうにか出勤した職場には暖房がなく、食料も不足しているなかで、皆が寒さに耐えて作業をしていた。ライフラインの復旧に時間を要したが、一番気がかりだった図書館システムが動いたと聞いたときは、とても安堵した。

「図書館として何ができるのか」を皆で考え、屋外での臨時窓口を約1カ月実施した。思い返すと、寒さや排気ガスに負けずに職員一丸となって、よく頑張ったと思う。

今、私たちが後世に残せるものとして「3.11 震災文庫」のコーナーを設け、書籍類をはじめとして資料の収集にあたっている。

あの日は小雪が舞い散るとても寒い日だった。あの寒さのなか、津波に巻き込まれた方々のことを思うと言葉がない。あの夜の満天の星は犠牲になった方たちだったのではないかと今思う。

犠牲になった方々のご冥福を心からお祈りします。

(市民図書館 S.S)



復旧後の7階フロア

東日本大震災の記録
— 3.11 をわすれないために —

平成24年2月 発行

発行 せんだいメディアテーク・仙台市民図書館
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2番1号
Tel. メディアテーク(022)713-3171・市民図書館(022)261-1585